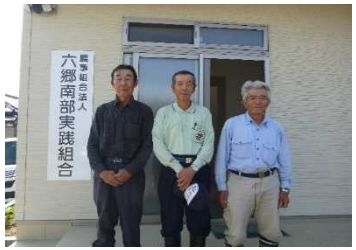
農事組合法人　六郷南部実践組合（宮城県仙台市）
～　震災後、地域の担い手として農地を集積・集約化し、園芸農業を展開　～



【ポイント】
①震災後いち早く畑での農業を再開し、地域農業の担い手として農地を集積・集約化。
②事業で大区画化したほ場で大型機械を導入し、水稲・大豆のブロックローテーションを行う。
③えだまめ、レタス等の園芸作物を栽培し周年農業を展開。震災後の地域コミュニティーの再生に取り組む。

取組の経緯

東日本大震災以前は、集落営農組織である六郷南部実践組合（構成員16戸）が集落の転作作物の栽培を担っていた。
震災発生後、津波により農地や農業機械等が被災したことから、農業の再開を断念し集落の離農が進んだ。
このため、離農した農家の農地の受け皿が必要となり、集落内で話し合いを重ね六郷南部実践組合を再編し、転作作物に加え水稲の受託組織として集落内の7戸の農家で平成27年に法人化。

取組の内容

① 地域農業の担い手として農地を集積・集約化
離農した農家の農地を積極的に引き受け六郷地域（種次、藤塚集落）の5割以上にあたる63.2haを集積・集約化。

② 大区画ほ場で水稲、大豆のブロックローテーション
大型機械を導入し低コスト農業に取り組む。業務用米として多収品種「ゆみあずさ」を栽培。

③ 震災後いち早く営農再開し、周年農業を展開
えだまめ、レタス、ゆきな、ほうれんそう等の葉菜類を栽培し、周年農業を展開。
・えだまめ栽培：有利販売を目指して、「朝採り枝豆」として、JAが集荷し、仙台市内の飲食店に供給。
宮城県内でいち早く、えだまめのもぎ取りまで行う収穫機を導入し省力化。

④ 地域活性化への取り組み
一般住民を対象にえだまめ収穫体験の受け入れ。
震災後、防災集団移転により分散した住民に代わり、多面的機能支払活動団体の構成員として集落の草刈り作業を担う。
さらに、若い社員を雇用し、農業大学校の研修を受講させるなど、後継者の育成に取り組む。

組織の概要
・代表者：相澤 幸義
・設立：H27
・構成農家数：6戸
・経営面積：63.2ha
・主要作物：水稲40ha,
大豆15ha,えだまめ4.8ha,
レタス2ha,ゆきな1.2ha,
ほうれんそう0.2ha

国営直轄災害復旧関連区画整理事業
・地区名：仙台東地区
・工期：H25～R2
・受益面積：1,900ha
・主要工事：区画整理,
水路工事,揚水機場

畑地でのレタス栽培

えだまめ収穫機

（農）六郷南部実践組合　法人の活動状況

法人の役員（相澤代表理事(左側)）

所有する農業機械

大区画化されたほ場

露地でのレタス栽培

えだまめ栽培のほ場

えだまめ収穫機でえだまめを収穫